

青森から、全国に署名の御協力を呼びかけます！

「六ヶ所再処理工場の本格操業に反対し、安全協定を締結しないで下さい」

六ヶ所再処理工場の本格操業が、2008年2月にも始まろうとしています。

再処理工場の本格操業は、原燃が国の許可を得たとしても、県知事が、安全協定を締結しなければ本格操業に入ることはできません。

今、「反核燃」で長い間運動してきた諸団体が「止めよう！再処理」のために県知事に安全協定の締結の中止を求める、署名活動を展開しています。

アクティブ試験で、作業員の被ばく事故、機材の故障などが相次ぎ、六ヶ所村の二又、室ノ久保、尾駈地区のモニタリングステーションでは、ベータ放射能濃度が、今までの自然界での濃度の変動幅を大きく上回って観察されており、クリプトン85の影響が確認され、下北海域には、大量の放射能が濃度規制なしに放出されています。

このまま、本格操業が始まれば、年間使い道のない8tのプルトニウムと、高い放射能を含んだ廃液のガラス固化体が六ヶ所に溜まり続けます。

再処理工場の敷地内にあるf1、f2断層と、更に、六ヶ所村の沖合5kmほどの海底に東通原発の前面海域をぬけ、北海道の室蘭に向かって、100kmを超えると推定される巨大な活断層が横たわっています。新潟県中越沖地震における柏崎刈羽原発の被害を教訓として生かすべきです。原燃は、この活断層が再活動する可能性を否定していますが、この海底の活断層が動く可能性は否定できず、マグニチュード8.2以上の巨大地震が起こると専門家はみています。

放出された放射能は、大気中で拡散し呼吸や、食物を摂取することによって、内部被ばくの危険性を生み出します。大地に降下した放射能は、やがて農産物、水を汚染し、食物連鎖によって、人体や、あらゆる生物に多大な影響を及ぼすでしょう。

再処理工場は、原発の1年分の放射性廃棄物をたった1日で垂れ流しにし、地震や事故による破壊は、チェルノブイリ原発事故以上の被害をもたらします。本格操業に多くの県民は、不安の日々を送っています。

ひとりひとりの声が、思いが、青森を変える事ができます。

後世に、危険極まりない放射能に汚染された地球を残さないために、署名への御協力をよろしくお願いします

「再処理工場の本格操業に反対し、安全協定を締結しないで下さい」

署名活動賛同者一同